

「千葉県こどもの生活実態調査」

(令和6年度調査) 結果報告

～集計結果の読み取り～

千葉県 健康福祉部 健康福祉指導課

本資料は「令和6年度千葉県こどもの生活実態調査報告書」を基に、千葉県においてグラフの加工と考察を加えた資料です。

本資料は、令和7年3月21日に開催の「(仮称)千葉県こども計画策定会議こどもの貧困対策専門部会」で配付した資料から、会議での議論を踏まえ、一部スライドの画像を変更しています。



調査の概要

【調査の目的】

千葉県の子どもの生活の実態を調査し、今後の子どもの貧困対策に係る施策の基礎資料とするとともに、次期の「千葉県子どもの貧困対策推進計画」（＝「千葉県子ども・若者未来プラン(令和7年度～令和11年度)」）の策定に必要な資料を得る。

【調査の実施主体】

千葉県が三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に委託して実施。

【調査対象】

千葉県の小学5年生の児童及び中学2年生の生徒のうち知事が選定するもの並びにその保護者

【調査時期】

令和6年6月



調査の概要

- 県内の小学5年生・中学2年生(約2万人)と保護者を対象に、世帯収入、保護者の就業、こどもの授業の理解度、健康状態、自己肯定感 等に関するアンケート調査を実施。



- こどもの貧困対策等の基礎資料とするため、各世帯の保護者とこどもの回答を紐づけて集計し、「家庭の経済状況(貧困)がこどもに与える影響」等を分析した。



イメージ



保護者の回答
etc...

⇒生活が厳しい家庭



こどもの回答
etc...

⇒授業がわからない
自己肯定感が低い 等

同じ世帯で紐づけ

分析結果(考察)

生活が厳しい家庭では...

こどもが

- ・授業がわからなかったり
- ・自己肯定感が低い

可能性がある。

統計的な分析(大量のデータを分析)により立証していく。



調査の規模 (配布数・回答数)

- 調査票の**配布**は、地域バランスを考慮して選定した県内**14市町村**の**小学5年生と中学2年生**に**学校経由**で配布。※**自宅**で**子どもと保護者**が各自**回答**は、**WEB**又は**郵送**により**直接回答**いただく方式をとった。
- これに加え、**君津市**が同時期に県調査と同様の設問を含めて実施した「**君津市こどもの生活状況調査**」の回答を**統合**。

⇒計**15市町村**の回答結果を**集計・分析**した。

<調査実施市町村>

柏市、成田市、旭市、八千代市、我孫子市、鴨川市、鎌ヶ谷市、君津市(市独自調査)、富津市、四街道市、匝瑳市、山武市、多古町、睦沢町、長生村

回答状況

	子ども	保護者
配布数	19,728件	19,728件
回答数	7,127件	7,275件
回答率	36.1%	36.9%



生活困難度の定義

本調査における「**貧困状態にある家庭**」



下記3要素のうち**2つ以上該当する世帯**を「**困窮層**」と定義。

<p>① 低所得</p> 	<p>等価世帯所得が平均的な所得水準(貧困線)の半分以下 <small>↳世帯所得を世帯人数の平方根(√)で割った数</small> <small>↳135万円(R5国民生活基礎調査から算出)</small> <small>↳世帯人員が多いほど1人当たりの生活コストは割安になるとの考え方</small> <small>※国民生活基礎調査による「(相対的)貧困率」と同じ考え方</small></p>
<p>② 家計の逼迫</p> 	<p>過去1年以内に経済的理由で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費、家賃の滞納 ・食料または衣類が買えなかった経験があった。 <p>(いずれか1つ以上該当)</p>
<p>③ こどもの体験や所有物の欠如</p> 	<p>過去1年以内に経済的理由で、こどもに、レジャー、お小遣い、洋服、習い事などを提供できなかった。(15項目中3つ以上該当)</p>

およそ10人に1人が**貧困状態**
 ※特にひとり親世帯で深刻



生活困難度別の分類	件数(世帯数)	割合	
困窮層 (2つ以上該当)	522件	9.7%	ひとり親(二世帯) 32.1%
周辺層 (1つ該当)	694件	12.8%	23.3%
一般層 (いずれも該当しない)	4,190件	77.5%	44.7%

※国の示す「こどもの貧困率」(R3:11.5%)は、所得水準のみから算出しており、定義が異なる。

【+α】 前回調査(R1)との比較 (生活困難度)

- 生活困難度について見ると、「一般層」が減少し「**困窮層**」が増加。

⇒ 「**特に厳しい層**」が増えている。

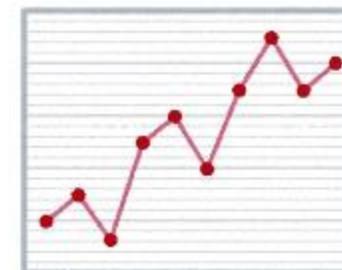
	R 6 調査 ←	R 1 調査	増減
困窮層	9.7%	6.9%	+ 2.8 pt
周辺層	12.8%	12.3%	+ 0.5 pt
一般層	77.5%	80.8%	▲ 3.3 pt



- 要素別に見ると、**全ての要素が増加(悪化)**しており、

特に「**③こどもの体験や所有物の欠如**」の悪化が**著しい**。

	R 6 調査 ←	R 1 調査	増減
①低所得	5.4%	4.1%	+ 1.3 pt
②家計の逼迫	14.1%	12.4%	+ 1.7 pt
③こどもの体験や 所有物の欠如	14.6%	10.6%	+ 4.0 pt



※ R 1 調査では[税・社会保険料引き前の所得]に[各種給付]を加えた世帯所得を用いて「低所得」を算出したが、R 6 調査では各種給付額を把握していないため、「低所得」に該当する世帯の割合が、やや高めに出ている可能性があることに留意が必要。

基本集計

～アンケート項目ごとの集計結果～



集計方法等について

- 各図表の結果数値(%)は、小数点第二位以下を四捨五入して表示しているため、各項目の割合の合計が100%にならない場合がある。
 - 分析に当たっては、 χ 二乗検定により項目間の統計的有意差を検定している。
 - ・ 1%水準で有意な場合は ($p < .01$) 又は [******] と記載
 - ・ 5%水準で有意な場合は ($p < .05$) 又は [*****] と記載
- ※ 1%水準で有意であるとは、項目間に統計的に差がない確率が1%未満であり、「項目間に差がある」といって差し支えない(有意差がある)という意味。

基本集計①

保護者アンケート集計結果



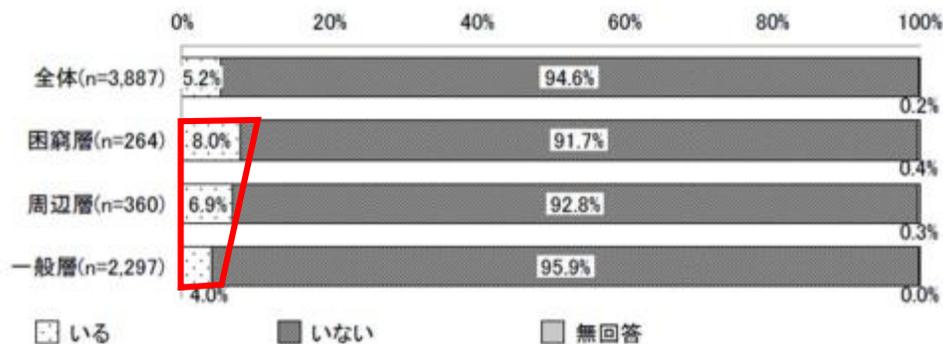
要介護者の有無

- 一般層に比べ**困窮層**では、**要介護者の家族がいる**割合が高い。

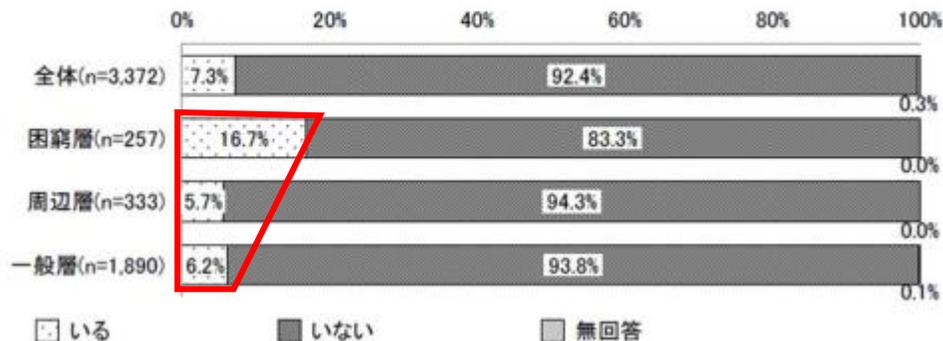
⇔ 要介護者のいる世帯ほど困窮している割合が高い。

- その傾向は、小学生より**中学生**において**やや顕著**。

<小学生> (p<.01)



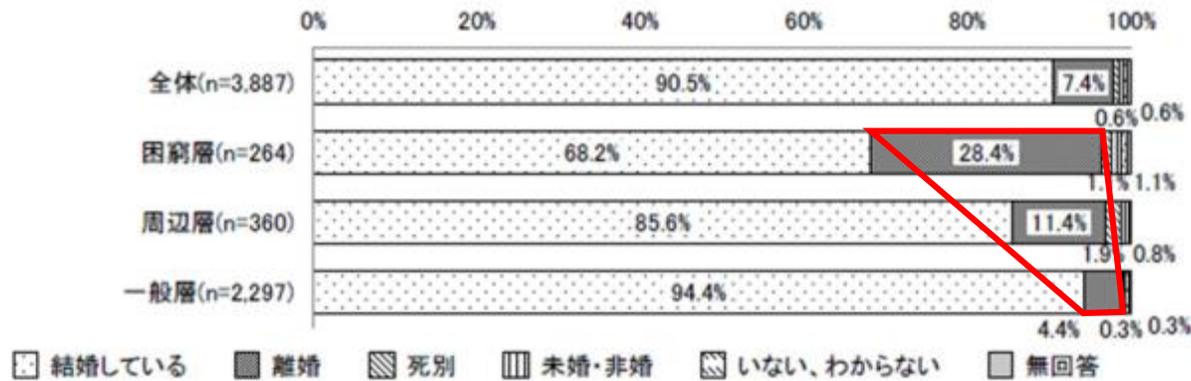
<中学生> (p<.01)



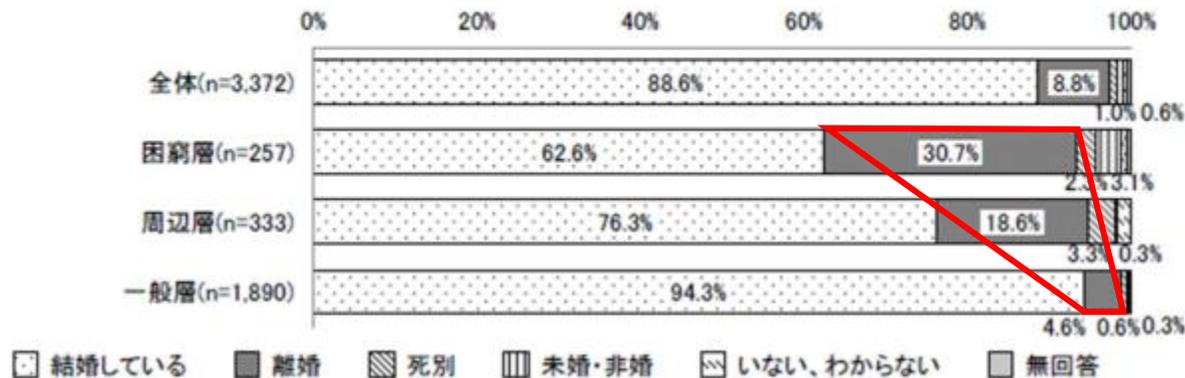
親の婚姻状況

- 一般層に比べ**困窮層**では、**親が離婚している**割合が高い。
 ⇔ **親が離婚している世帯ほど困窮している**割合が高い。

<小学生> (p<.01)



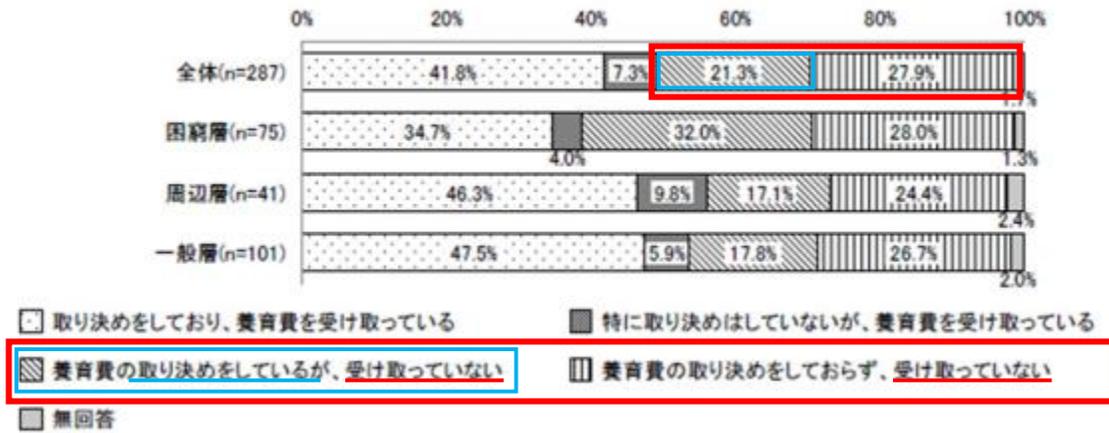
<中学生> (p<.01)



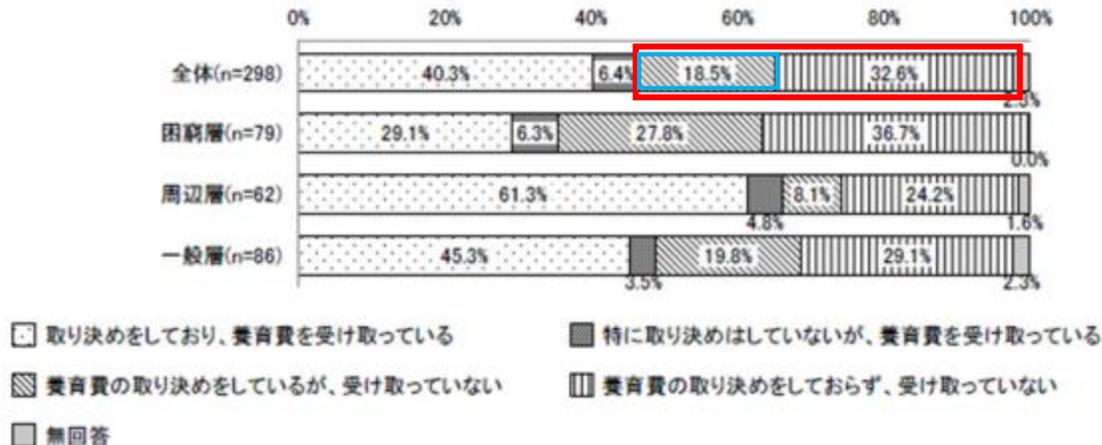
養育費の取り決め状況

- 親が離婚している世帯の約50%が養育費を受け取っていない。
約20%は取り決めをしていても、受け取っていない。

<小学生> (有意差なし)



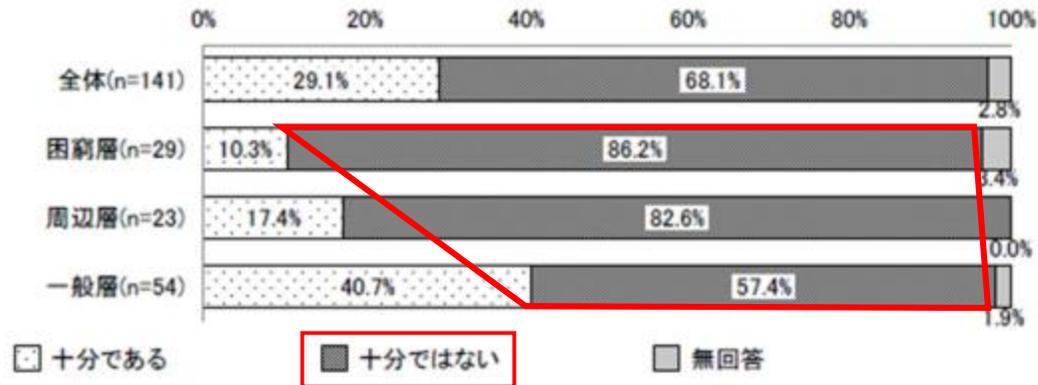
<中学生> (p<.01)



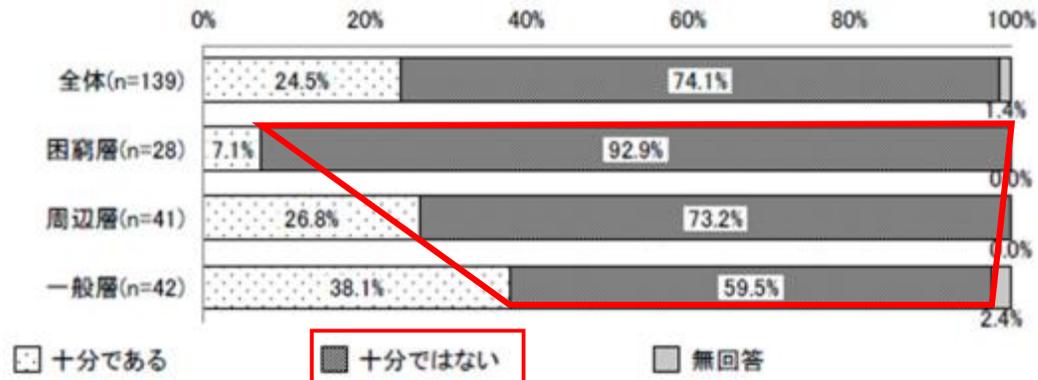
養育費の金額の満足度

- 養育費を受け取っている世帯であっても、その金額は「十分ではない」と考える世帯が**大半(約70%)**。
- その傾向は、**困窮層ほど顕著**。

<小学生> (p<.01)



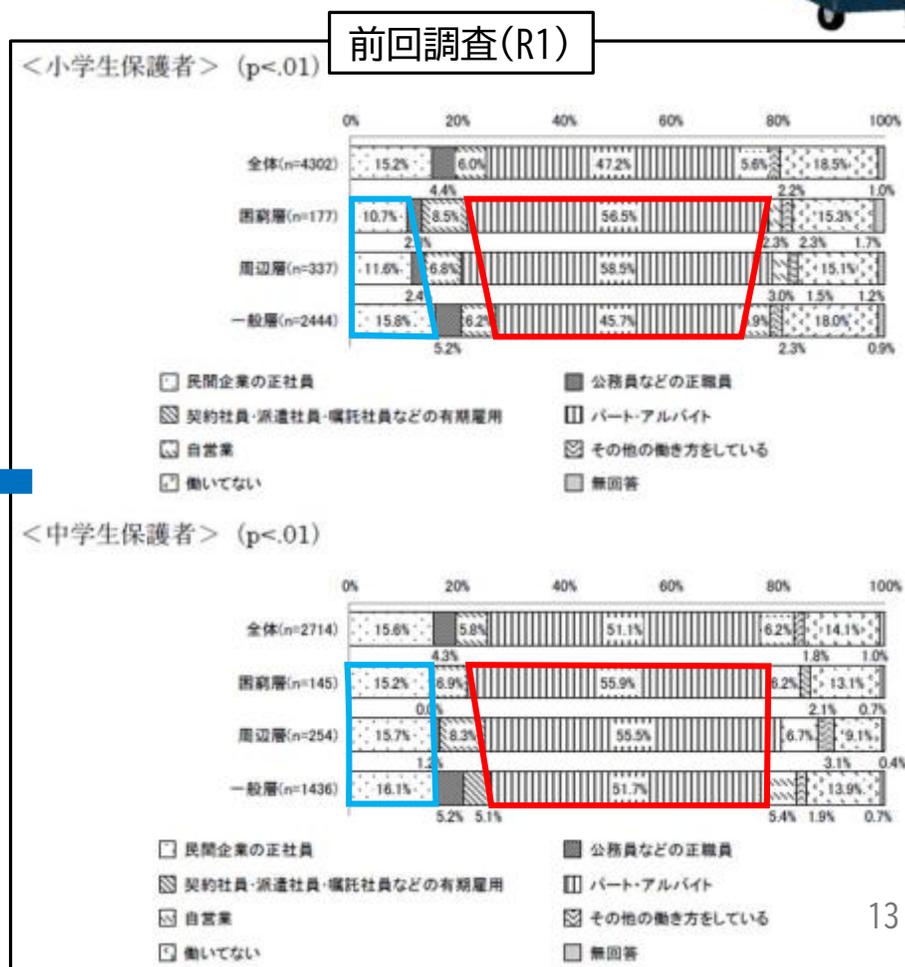
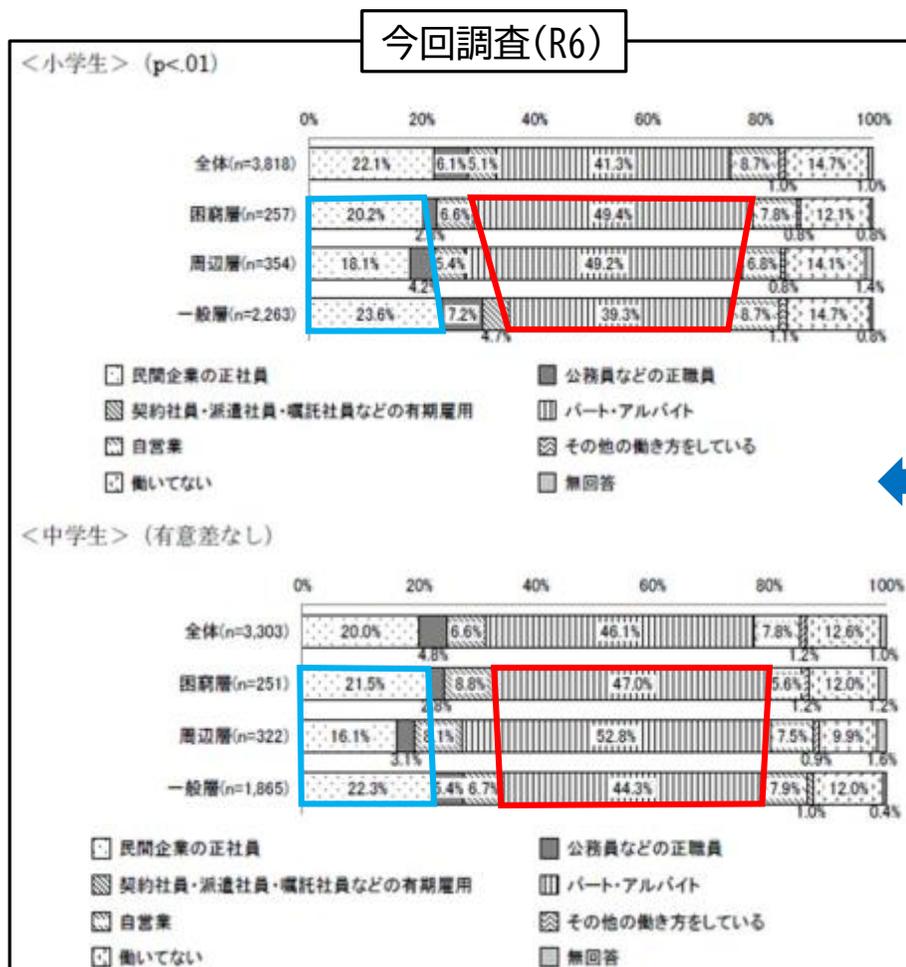
<中学生> (p<.05)



母親の就業状況（生活困難度別）



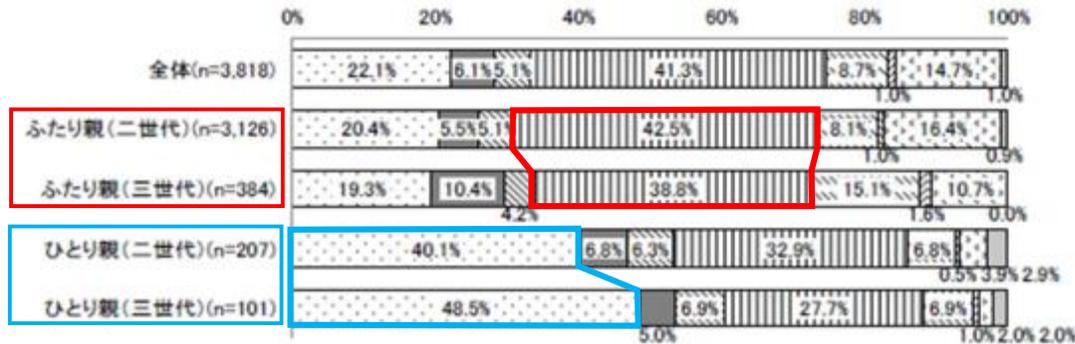
- 小学生では、一般層に比べ**困窮層**において、**正社員**が少なく、**パート・アルバイト**が多い。（中学生では有意差なし。）
- 前回調査（5年前）に比べ、**全ての層**において**正社員**の割合が**増加**。



母親の就業状況（世帯タイプ別）

- 世帯タイプ別に見ると、
 - ふたり親世帯では、母親がパート・アルバイトの割合が高い。
 - ひとり親世帯では、母親が正社員の割合が高い。

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



- 民間企業の正社員
- 公務員などの正職員
- 契約社員・派遣社員・嘱託社員などの有期雇用
- パート・アルバイト
- 自営業
- その他の働き方をしている
- 働いてない
- 無回答



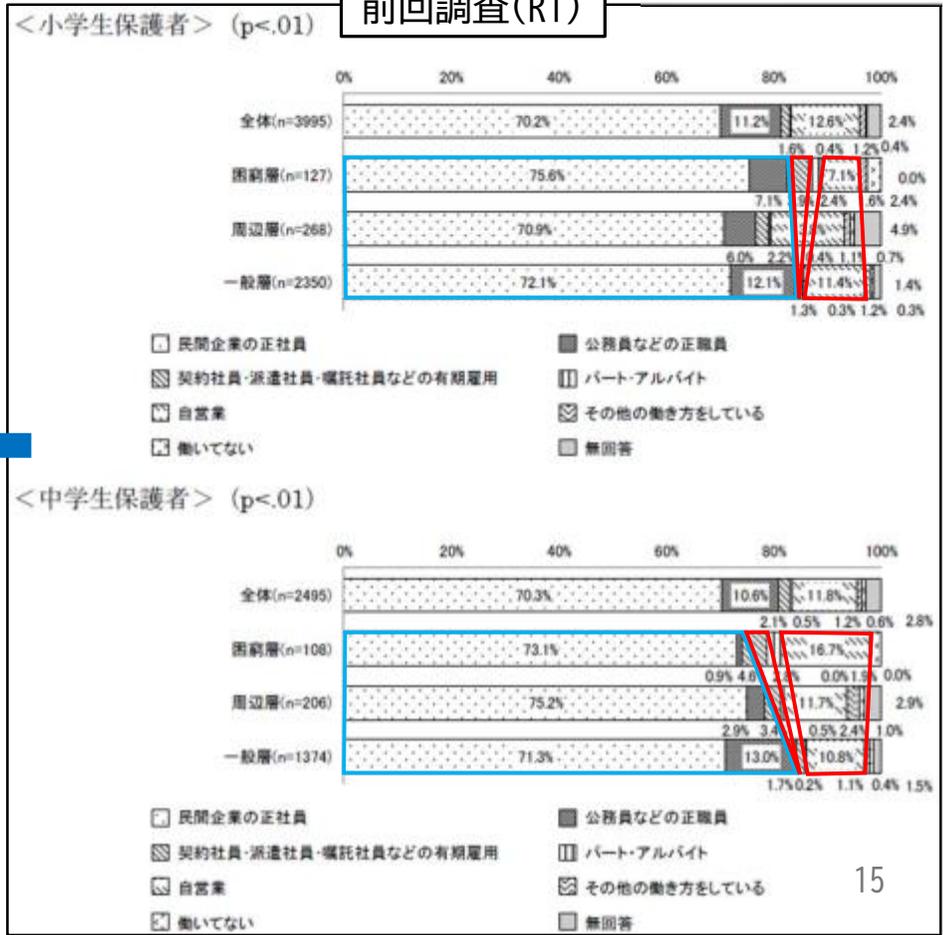
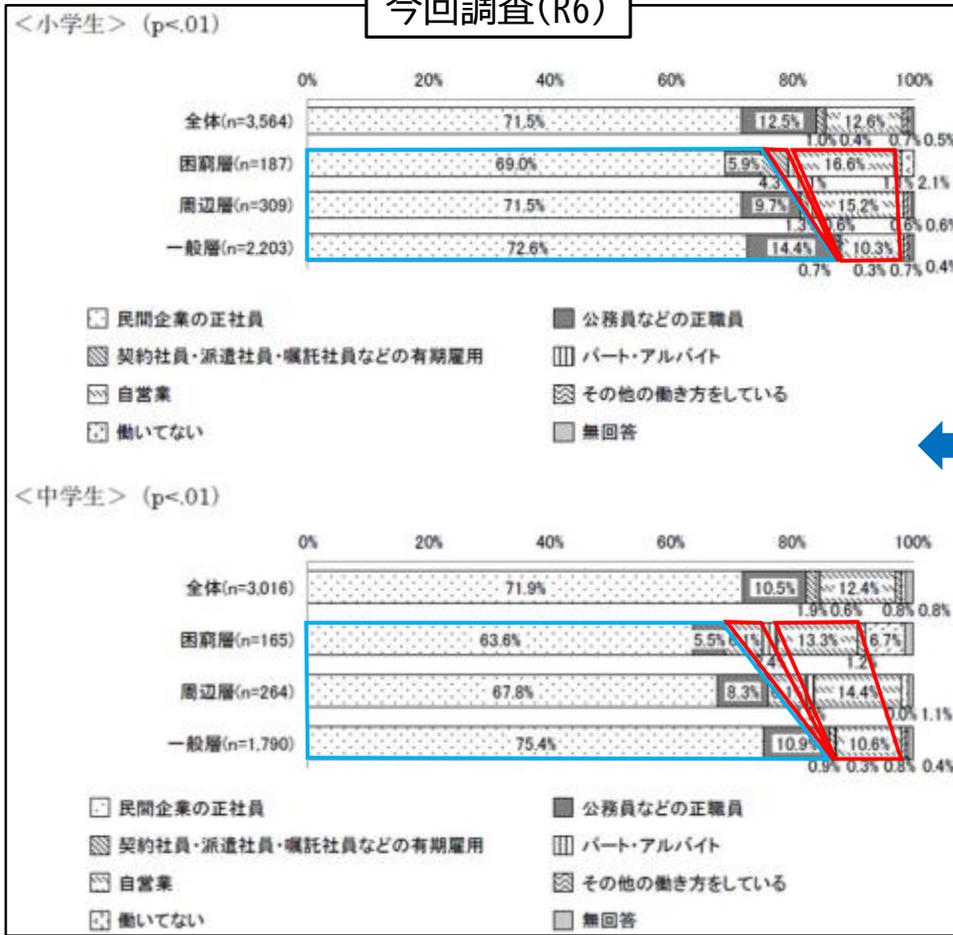
父親の就業状況（生活困難度別）

- 一般層に比べ**困窮層**において、**正規雇用**が少なく、**非正規雇用**や**自営業者**が多い。
- 前回調査(5年前)**に比べ、**困窮層**では**正規雇用**の割合が**減少**。



今回調査(R6)

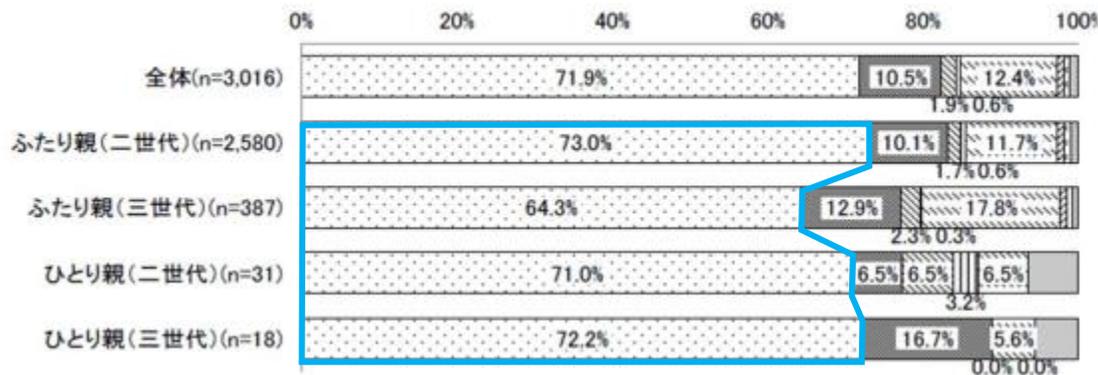
前回調査(R1)



父親の就業状況（世帯タイプ別・国籍別）

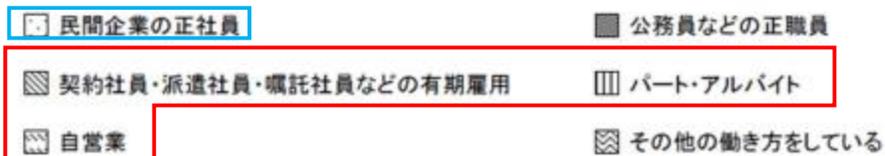
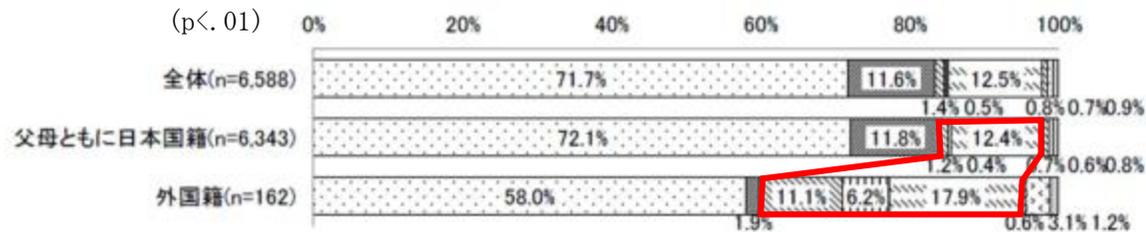
- 世帯タイプ別に見ると、
いずれの世帯タイプでも、正社員の割合が高い。

<中学生> (p<.05)



- 国籍別に見ると、
保護者が**外国籍**の場合、**非正規雇用**や**自営業**の割合が高い。

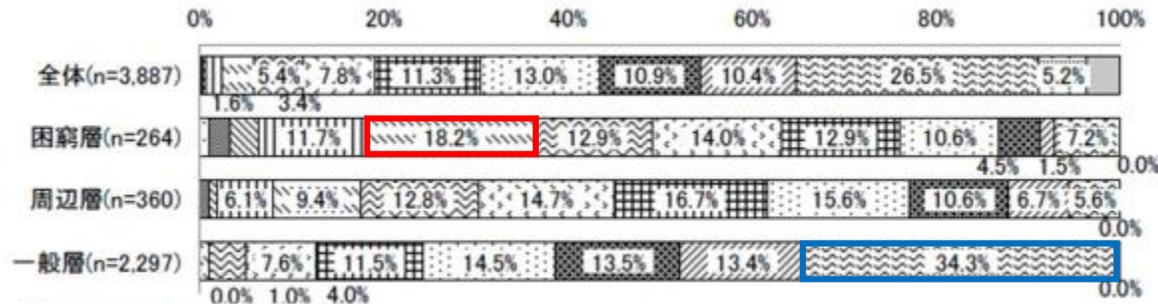
(p<.01)



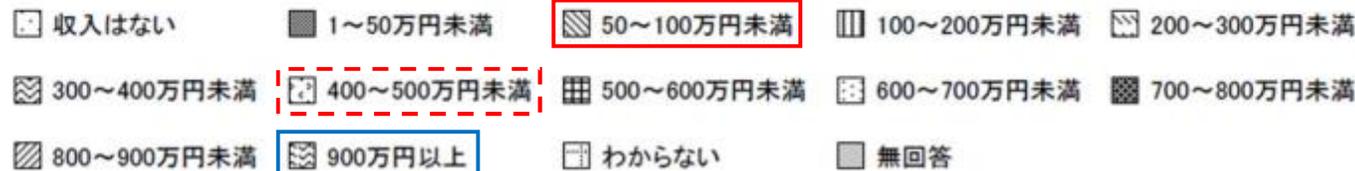
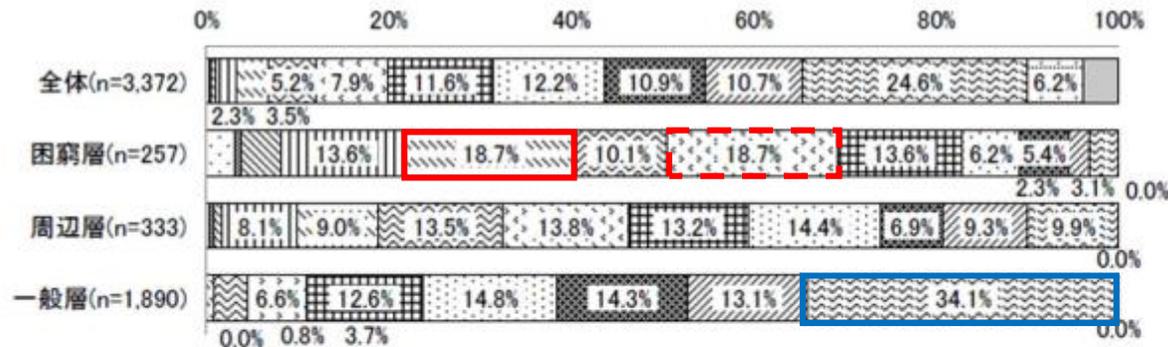
世帯全員の年間収入

- 困窮層では「50～100万円未満」「400～500万円未満」が最多。
- 一般層では「900万円以上」が最多。

<小学生> (検定不可)



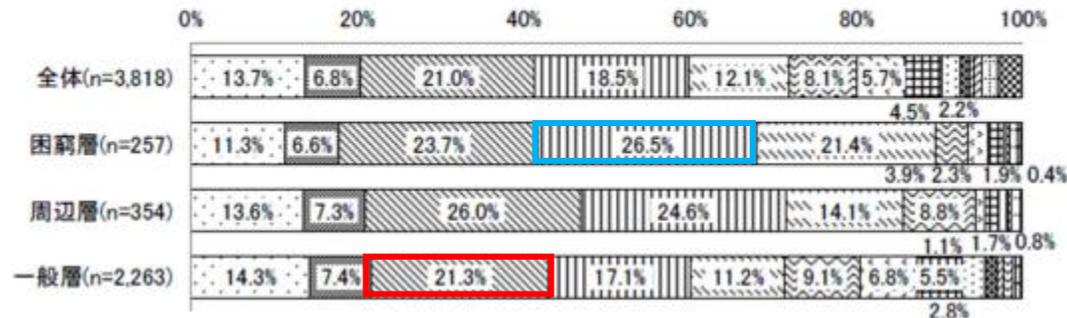
<中学生> (検定不可)



母親の年間収入（生活困難度別）

- 困窮層では「100～200万円未満」が最多。 ←なぜか世帯全員の最多値より高い…
- 一般層では「50～100万円未満」が最多。

<小学生> (p<.01)



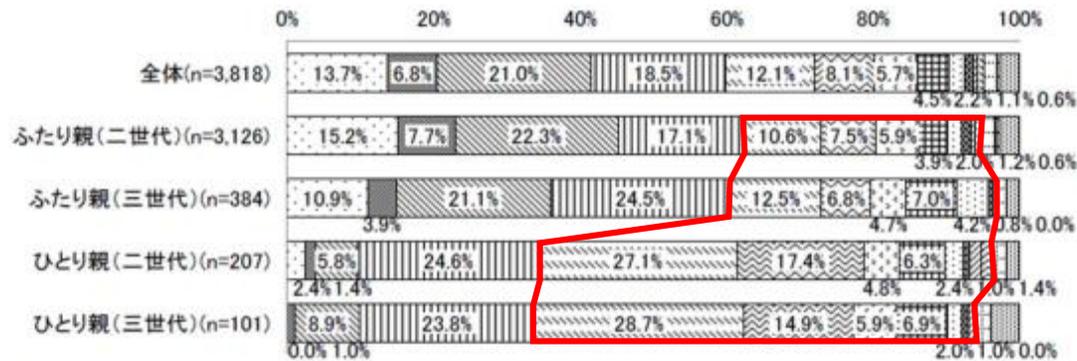
<中学生> (p<.01)



母親の年間収入（世帯タイプ別）

- ふたり親世帯に比べひとり親世帯において「200万円以上」の割合が高い。

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)



父親の年間収入（生活困難度別）

- 困窮層では「300～400万円未満」「400～500万円未満」が最多。
- 一般層では「900万円以上」が最多。※「母親」とは逆の傾向(困窮層<一般層)

<小学生> (p<.01)



<中学生> (p<.01)

